

米株 VIX 上昇、最近では 3-6 週で一服傾向 不安心理指数、4 年半ぶり低下楽観的反動修正にらむ

2024/7/19 (金)

リスク選好か回避かの尺度であり、米株投資家の不安心理を映すシカゴ・オプション取引所 (CBOE) ボラティリティ (VIX) 指数は、17 日からリスク回避方向の大幅上昇となってきた (米株は下落)。米国による中国への貿易制限強化などが悪材料となっているが、最近では VIX の大幅上昇後、3-6 週で不安定化が一服となっている。

現在は 4 年半ぶり低水準への低下という過剰楽観的反動も影響しており、当座は 7 月後半まで続く米国企業の決算発表や米大統領選動向、8 月上旬にかけての米指標などをにらみ、調整一巡の見極めとなる。

決算発表、大統領選 8 月上旬にかけ指標見極め

「米国の共和党は 11 月の大統領選でトランプ前大統領を候補として政権奪還を目論んでいるが、トランプ・チームのみならず、議会選を含めて共和党全体の選挙対策チームが、綿密で戦略的な選挙戦略を取りまとめ、粛々と実行している」――。

米国のワシントン関係者と情報交換を行っている米国系金融機関の幹部は、このような指摘を行っている。

現在はトランプ氏が勝利した場合、保護主義の強化や大型減税の延長、新たな減税、移民規制、化石燃料の業界配慮などが想定され、米国でのインフレ再上昇や財政赤字拡大、長期債金利の上昇 (米国債価格は下落) などが警戒されている。

それでも現在の共和党・選挙対策チームの有能さのほか、「トランプ氏の暗殺未遂事件の前段階から、共和党が一枚岩の結束を強化させつつある」(同) こともあり、トランプ氏勝利の場合、米国の政治・政策と経済・株価に「意外な安定感」(同) が想定されるという。

その前段階として 7 月 17 日の米国株市場は、ハイテク株を中心に急落となり、S&P500 やナスダックなどが大幅安となった。米バイデン政権が、米国製技術を少しでも使用した外国製品に制限措置の導入を検討していると同盟国に伝えたことを受けて、改めて米国による中国への貿易制限強化などが懸念されている。

株安と裏表でリスク選好か回避かの尺度となり、米株投資家の不安心理を映すシカゴ・オプション取引所 (CBOE) ボラティリティ (VIX) 指数は、17 日からリスク回避方向の大幅上昇となってきた。

連動で日本市場でもリスク回避の株安と円高が後押しされている。とくに為替相場ではドル/円、クロス円で投機的な円のショート・ポジション (売り持

ち) が過去最高水準に積み上がっており、リスク回避は円ショートの縮小・整理による円高 (円の買い戻し) を後押しさせている。

最近の VIX 上昇の場合、上昇の第 1 週を含めて 3-6 週で不安定化が一服となってきた。今回も 17 日の VIX 上昇が単発で終わるかを含めて、3-6 週での調整一巡を見極める展開となりそうだ。

VIX の直近 17 日は日中最高が 14.88 となっている。7 日の日中最低 11.84 から切り上がり、5 月 30 日以来の高水準となってきた (米株は下落、リスク回避の方向)。VIX は 4 月以降、FRB 利下げ期待や米国景気の軟着陸期待などで低下が続き、月間の最低は 5 月から 7 月にかけて 3 カ月連続で 11 台となっている。

最近ではコロナ・ショック以前となる 2020 年 1 月以来、約 4 年半ぶりの「3 カ月連続での 12 割れ」という低位持続となっていた。過剰楽観には行き過ぎ過熱感もあり、当座はその反動調整余地が注目されやすい。

当座は 7 月後半まで続く米国企業の決算発表や米大統領選動向、8 月上旬にかけての米指標などをにらみ、調整一巡の見極めとなる。

米銀株は長期上昇入り兆候、リスク回避広がり抑制

VIX は直近の日中最高が 17 日の 14.88 に対し、最近の VIX 上昇時における週足テクニカルでの上限節目抵抗ラインとしては、17 日時点の数値ベースで、週足・一目均衡表チャートでの先行スパン・雲下限 15.52、基準線 16.44、200 週移動平均線 19.80、先行スパン・雲上限 21.31 などがある。目先はこうした上限抵抗ラインまでの VIX 上昇と日米株の下落、為替円高の「残余地」が注視される。

現在の米国株については、AI・ハイテク株などに過熱警戒感が漂っている。それでも価格調整による短期株安や、日柄調整によるレンジ横這い化を経たあとは、再上昇の余地が消えていない。

具体的には米 FRB の利下げ期待や、米大統領選の前後での政策期待、トランプ政権復活の場合のロシア・プーチン大統領との対話復活とウクライナ戦争の「休戦」落としどころ交渉の始動などがリスク選好の要因として注目される。

VIX の長期トレンドで参考になる月足テクニカルでは、月足・一目均衡表チャートでの重要節目ライン、先行スパン・雲下限が、足元 7-8 月の 28 から、先行き 9-12 月の 27 という横這いを経て、2026 年にかけて 20 方向へと急激に切り下がっている。

同時進行で先行スパン・雲上限との乖離が広がり、先行き雲の下限と上限の間で厚い雲が形成されてい

る。強力な上値抑制の抵抗ゾーンとして注目されるものだ（VIXの上昇抑制＝株安とリスク回避抑制）。あくまでテクニカルながら、過去実績として先行きに「雲下限の切り下がり」と「厚い雲」が観測されるケースでは、その前後で米国株の上昇と、追従した日本株の上昇ラリーが連動形成されてきた。

具体的には日本でのアベノミクス相場が重なった2012－2017年前後のほか、米国で住宅・金融バブルなどが盛り上がった2005－2007年などで見られている。

その他、現在の米国では短期金利の利下げ観測が高まるなか、トランプ新政権による景気刺激策の思惑とあいまって、長短金利差の逆イールド解消（長期金利の下振れ修正）が焦点となっている。

米国での逆イールドからの正常化は、米国での利ざや改善を含めて、金融・経済の正常化や期待成長率の改善期待に寄与。過去には米国の銀行株上昇のほか、米国株全体の上昇と日本株市場での日経平均の上昇が連動支援されている。

米国では17日の株安局面でも、米銀株は底堅さを維持させた。過去実績として米銀株が底堅さを維持

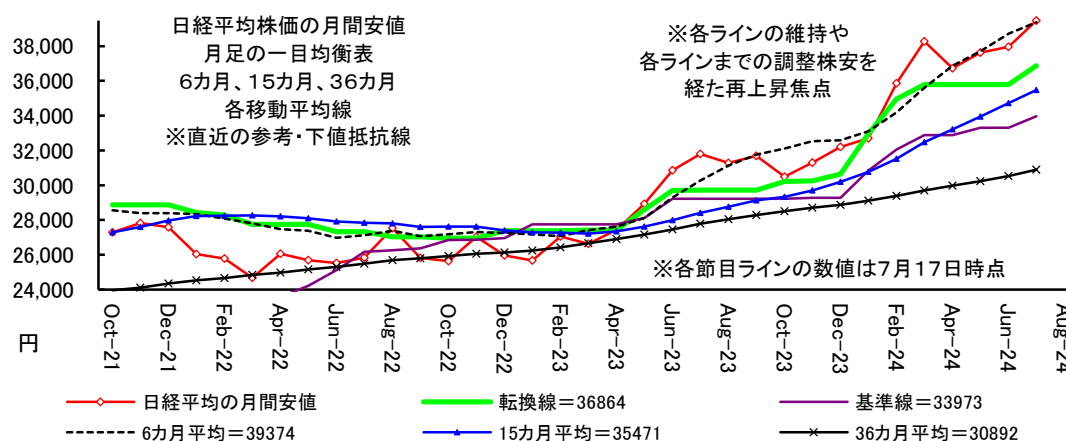
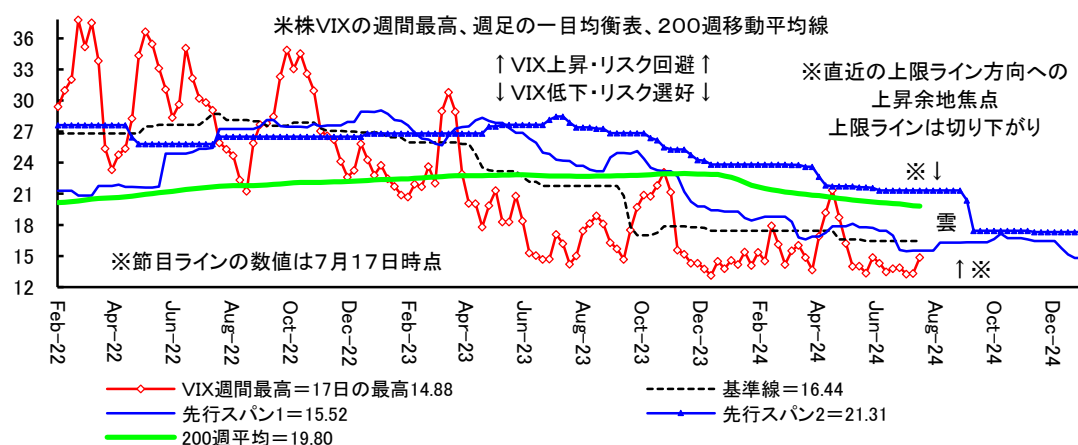
している限り、リスク回避によるVIXの上昇と米日株の下落、円高の値幅や期間は限定的となってきた。

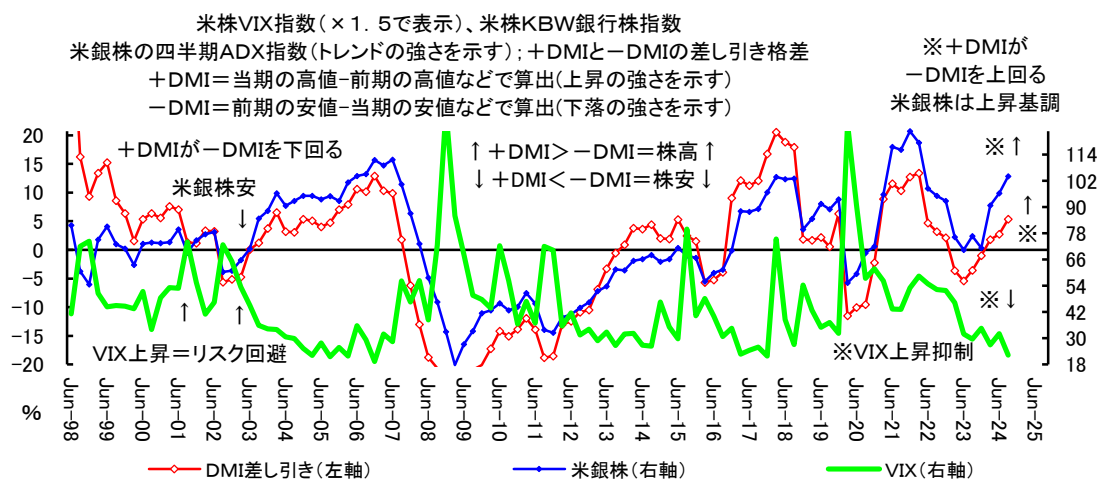
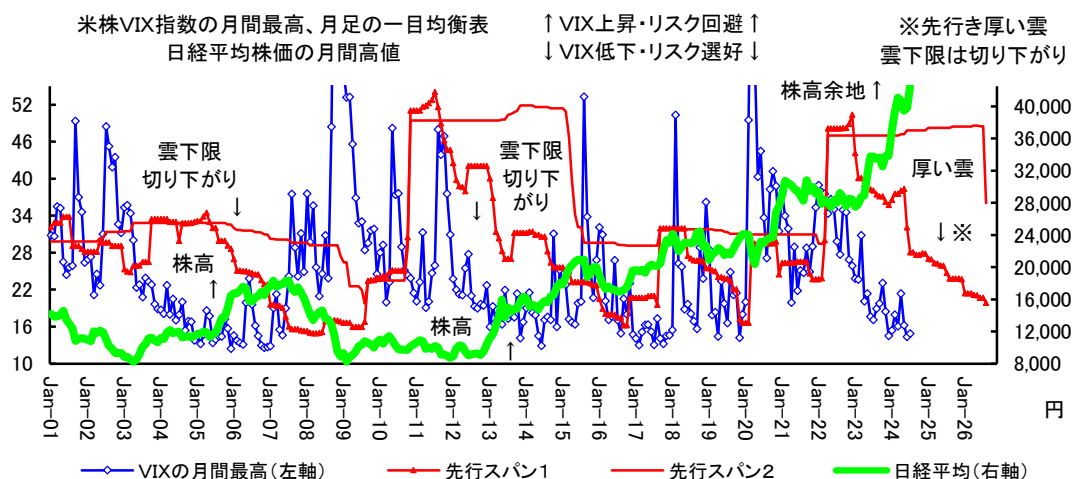
米国株の代表的な銀行株指数・KBW銀行株指数については、トレンドの方向性やトレンドの強弱度合いを示すADX指数（Average Directional Movement Index、平均方向性指数）によると、長期トレンドを示す四半期ベースで「上昇トレンド入りの初期段階」が示唆されている。

株高モメンタムの強さを示す+DMI（当期の高値－前期の高値などで算出、株高トレンド時に上昇）は上昇基調となり、反対に株安モメンタムの強さを示す－DMI（当期の安値－前期の安値などで算出、株安トレンド時に上昇）は低下基調となっている。

今年1－3月からは、+DMIの位置が－DMIを上回るゴールデン・クロスが形成されてきた。長期スパンでの米銀株の上昇トレンド入りが見込まれている。

最近の四半期ベースでのゴールデン・クロス定着は、2021－22年にかけての8四半期（約2年）、2016－19年にかけての13四半期（約3年）、2013－15年にかけての9四半期（約2年）といった一定の継続実績がある。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。